

57 ヴェサリウスの父アンドリエスの、 皇帝カール五世による嫡出承認書

泉 彪之助

介護老人保健施設 陽翠の里

アンドレアス・ヴェサリウスは、『ファブリカ』の出版後、スペイン宮廷に入り、神聖ローマ皇帝カール五世およびその子スペイン王フェリペ二世に侍医として仕えた。演者は、昨年の学会でその経緯について報告したが、ヴェサリウスがカール五世に庇護をもとめたのではないかとした。その後の検討で、ヴェサリウスは世襲職として父のあとを継いだのではないかと考えるようになったが、その参考に父アンドリエスの、カール五世による嫡出承認書を検討した。

ヴェサリウスの先祖は、高祖父ペーテル、曾祖父ヨハネス、祖父エヴェラルトの三世代にわたって、ハプスブルク家およびその縁戚のブルゴーニュ公家に侍医として仕えた。しかしヴェサリウスの父アンドリエス

は、祖父エヴェラルトとマーガレット・スウィンターズの間生まれた庶子で、そのためか、医師でなく薬剤師であった。アンドリエスは、一五三一年にカール五世によって嫡出と認定され、実子として扱われるようになった。パロンは、著書にこの嫡出承認書の原文テキストを掲載しており、この訳を試みた。内容の概要について報告する。アンドリエスの母、マーガレット・スウィンターズがどのような立場の女性であったか、不明である。

嫡出承認書の主要な内容は、次の通りである。第一は、この承認書が、カール五世の宮廷における奉仕を続けたいという理由で、アンドリエスがカール五世に嫡出認定を願った請願書に答えたものだという事。オマリイは、この請願書を紹介しているが、一部のみで全文ではなく、また嫡出承認書そのものではない。第二は、アンドリエスの庶出を否定するのではなく、それを認めた上で、恩恵によって嫡出と同様に扱うとしたこと。第三は、アンドリエスに両親の地位の継承と財産の相続権を認めていること。第四は、アンドリエ

スの後継者がその地位と財産を継承・相続できるとしたこと。第五は、この嫡出承認書の交付に対して、宮廷の側から対価を求めることの禁止、である。

アンドリエスは、庶子であるため、その家系につながるものと認められず、いろいろな面で不利を蒙る可能性があったであろう。それを避けるための請願書であろうが、一五三一年という時期は、アンドリエスが宮廷薬剤師として勤務するようになってからかなりの年月が経っているものと考えられる。この年、ヴェサリウスは一七歳で前年にルーヴァン大学に進学していた。アンドリエスは、ヴェサリウスが将来自分の跡を継ぐ立場に立つことを考慮して、この請願を行ったのではないだろうか。この嫡出承認書によって、アンドリエスは家系の一員と認められ、ヴェサリウスは、世襲職の廷臣一家の一人として、父の跡を継ぐことができるようになったものと思われる。

この嫡出承認書は、法律に基づいた裁定ではなく、カール五世の特別な配慮による決定であった。ヴェサリウスの宮中伯認可状は、神聖ローマ帝国の法律に基

づいた正式の決定であるためラテン語で書かれているが、この承認書は、皇帝の宮廷内の処置としてフランス語で書かれている。このフランス語は十六世紀の中期フランス語で、現代フランス語と異なっている。演者のフランス語能力が低いこともあって、訳に多くの誤りがありうらと思うが、訳語を提示する。